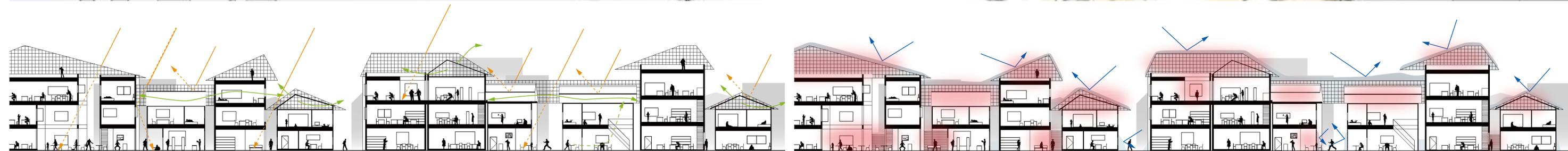


「大きな屋根」と「風」と「雪」



Introduction

新潟県十日町市は毎年の平均降雪量が2mを超し、年間の3分の1が積雪期間となっている。一般的に雪は、融雪時のランニングコストや、雪下ろしや落雪による怪我の危険性など、人々の生活を規制する力を持つ。しかし他方では、雪と人々の関係が独自の文化を形成することもある。この十日町では、必要に応じて仮設的なものを自分たちで付け加え、積雪時にも空間を確保するといった、自発的に空間を構築していく性質を持っている。

計画地として、十日町の中心市街地である十日町駅前の一街区を選定した。この街区は、道路に面した商業地帯が、低密な住宅街を囲い込む配置関係となっている。現状として、この商業地帯も時代の流れとともに廃れつつあると言える。

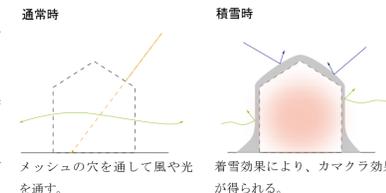
そこでわれわれはまず、外側の商業地帯において、建物相互の関係に着目し、大きな屋根を付加する。それは、住民自身が屋根の下空間を再編成するきっかけとなる。そして十日町は住民たち自らが更新していく都市となる。さらにこれら、外側の商業地帯において行った建物相互の操作は、都市レベルの視点で見るときでも街区全体の風を調整する機能を持つ。

十日町は、雪の有無によって都市の形態を変化させ、環境に適応してゆく。



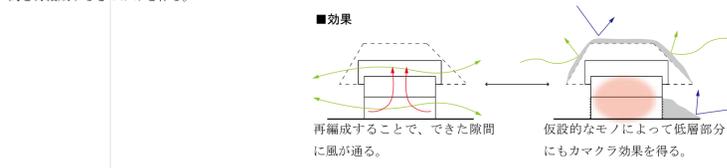
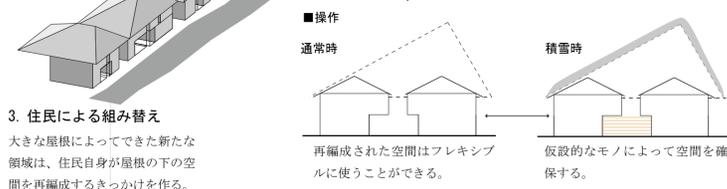
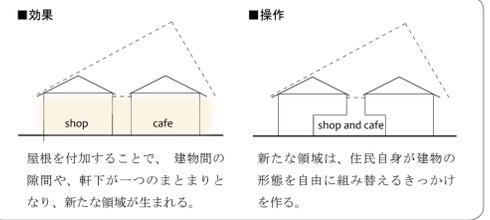
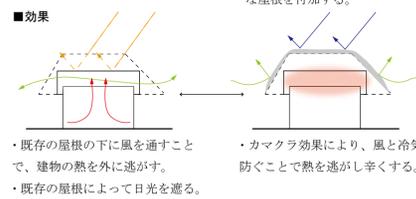
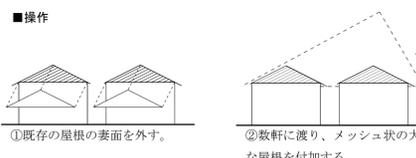
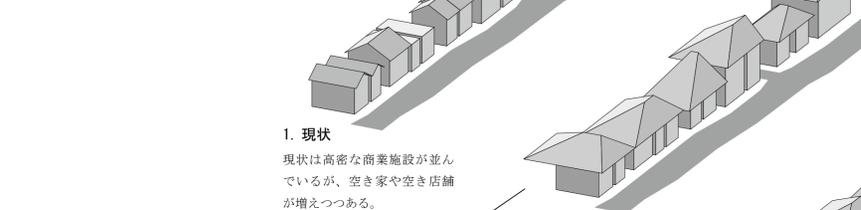
Effects of Snow

- ・着雪効果
表面に凹凸があると雪が物体に付着する効果。
- ・カマクラ効果
物体を雪で囲うことによって断熱効果や防風効果が得られる。
- ・メッシュ
着雪効果に着目し、メッシュ状の素材を用いる

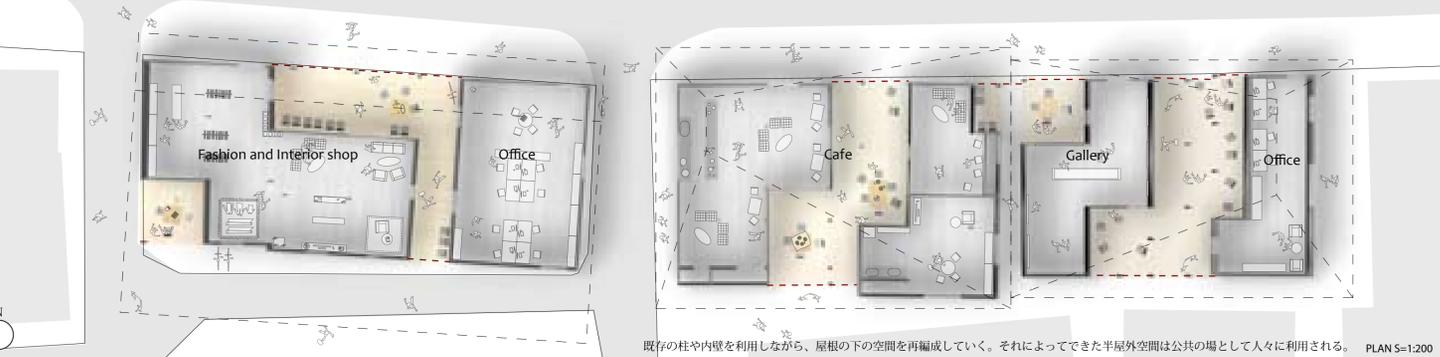


focus on MICRO

外側の商業地帯の建物に、屋根の操作を加える。
その操作とは、既存の屋根の妻面をとりはずし、数軒にわたりメッシュ状の大きな屋根を付加することである。
それは、建物単体で見ると、主に室内の熱環境を調整する働きがある。また、建物相互の関係を見ると、建物間の隙間や、軒下が一つのまとまりとなり、新たな領域が生まれる。
新たな領域は、住民自身が建物の形態を自由に変えるきっかけを作る。それによって出来た空間は風の通り道となり、また公共性の高い場ともなる。



3. 住民による組み替え
大きな屋根によってできた新たな領域は、住民自身が屋根の下空間を再編成するきっかけを作る。



focus on MACRO

屋根の操作とその影響は、都市的な視点で見るとにも重要な役割を果たしている。
外側の商業地帯の屋根の操作と、住民によって再編成された空間は、高密度ながらも内側の住宅街に風を取り入れることを可能にする。
また、積雪時には、大きな屋根の穴や格子間の隙間は雪によって埋められる。
つまり、外側の商業地帯は雪が積もると、街区内部への風を防ぐ防風壁の役割を持つようになる。
大きな屋根は風や熱を調整するとともに、十日町の住民自身がまちを更新していくきっかけを作り、雪に対する考えをネガティブなものからポジティブなものへと変化させる。

